

図書館へ行こう！

皆さんは、普段どこで読む本を手に入れていますか？「本は必ず買う」という人、「近くの公共図書館を利用する」という人、さまざまだと思います。学院図書館を利用することも、そんな手段の一つです。学院図書館の本は、全国学校図書館協議会の推薦図書をもとに、学院内すべての先生方が選定に携わって構成されています。進学指導の先生から紹介された図書も多く、大学受験対策に活躍する図書を集めたコーナーがあります。学院図書館をもうひとつの“自分の本棚”だと思って、どんどん活用しましょう。

本を読んで、大学へ行こう 今年の入試から — VOL. 2

(早稲田大学教育学部入学試験国語第一問) 出典：山本雅男著『近代文化の終焉』1982年中公文庫超ロングセラー『ヨーロッパ「近代」の終焉』(講談社現代新書右図参照)の続編です。「近代文化」はどのように成立し、どう終焉を迎えつつあるのか。そして、「文化」はどこへ向かうのか——。

あらゆるメディアが周囲を駆けめぐり、もはや「カルチャーショック」が死語になってしまった現在、世界各所で起こる危機的状況を深刻に受け止める感受性と想像性をもつために、一般的教養として、本書に書かれている内容は、ぜひとも知っておいて欲しいと思います。

この問題では、文字数にして約3,800字の本文を読み解きます。もう1問、本文3,500字程度の問題と合わせて計90分で解かせる出題となっています。日頃からこのような文章に数多く触れ、慣れておくようにしましょう。また、このような論文を読み解くときに、哲学や社会学の基礎知識はとても役に立ちます。学院図書館には哲学などの入門書が充実していますので、一度手にとってみましょう。



夜間中学へようこそ



おばあちゃんが
わたしと同じ中学一年生!?

ひょんなことから、7歳の祖母のつきまいで、夜間中学へ通うことになった優菜。そこで出会った仲間たちとのかけがえのない日々——

(宮崎県立高校入試国語第一問) 出典：山本悦子著『夜間中学へようこそ』

著者の山本悦子さんは元小中学校教員。実際に夜間中学を見学し、そこへ集うさまざまな人の群像、個性豊かな仲間たちを描きます。

「わたしも4月から学校だから」……ある日突然、祖母が宣言した。おばあちゃんがわたしと同じ中学1年生に!? 孫の優菜は、ひょんなことから祖母とともに夜間中学へ通うことになり、知らない世界へ足を踏み入れる。それは、かけがえのない日々の始まりだった。

どうして勉強するのか、なぜ学校へ行くのか。多感な中学生の目を通して、見えたものとは——。

今注目の夜間中学を舞台にした感動の物語。

この本は、昨秋の「SLBA選定図書2016第Ⅱ期」で図書館に入ってきた図書です。

春休み特別貸出

貸出期間 3/13(月)～3/28(火)

貸出冊数 10冊。

返却期限 4月11日(火)厳守

☆3/29～4/6の間、図書館は休館します。

予告：2017春休みの図書館利用日

この期間の利用時間は、9:00～17:00です。

日	月	火	水	木	金	土
19	20	21	22 終業式	23	24	25 休館日
26	27	28	29	30	31	4/1
2	3	4	5	6	7 始業式	8 休館日
9	10 入学式	4/11から通常開館(10:00～18:15)です。				

有意義な春休みにするために、1日10分でも読書の時間を持ち、新書の数々や難しそうな文学作品に触れるよう心がけましょう。



今から約 90年前、群馬県草津で、ハンセン病に苦しむ人たちに寄り添い、尽くし、みなから「かあさま」とよばれて慕われたイギリス人宣教師、コンウォール・リーの活動と半生を描く。

少女のころ聞いた牧師の話から、苦しむ隣人とともに生きたいという願いを抱いたリーは、59歳で草津に移住。以来、教会や医院、幼稚園、病者の暮らすホームをつぎつぎと建て、病気の治療と子どもたちの教育に力をそそいだ。心ゆさぶる感動の絵本。[英訳版の絵本もあります]

リーさんの生き方は、生きていくうえでわすれてはならない「共に生きることの大切さ」を私たちに教えていると思います。みなさんがこの絵本をとおして、ハンセン病とその歴史、そして、リーさんのことについて関心をもってくださったら、たいへんうれしいです。(著者中村茂のことばより)

話題のあの本、 図書館にあります

文学賞を受賞した本や、ベストセラーになっている本、話題の本・・・学院図書館にもいろいろそろえています。貸し出し中の時は予約してくださいね。



以下余白